

三野民報

2007年10月号 第110号

■発行所/三豊民報社

三豊市高瀬町比地中 TEL(0875) 72-1383

■どんなことでもご相談下さい。

皆さんの声を
市政に届けます。

日本共産党三豊市議団



お気軽に
お電話ください。

岩田秀樹

☎ 72-5094

090-4339-0577

ホームページを開設しました。
どんどんアクセスしてください。



(旧三野町に関係した内容をお知らせしていきます。)

<http://iwata.jcpweb.net/>

グリーンセンター建設問題で先進地調査しました

兵庫県南但広域行政事務組合（朝来市・養父市）は、「バイオマス+焼却」方式のゴミ処理施設を建設する総事業費約71億円、完成平成26年3月予定の予算

化をしました。

日本共産党三豊市議団は、ゴミ処理施設建設の経過や問題点を把握するため調査活動を行いました。

兵庫県南但広域組合のグリーンセンター建設計画の概要

「バイオマス+焼却」とは、バイオマス施設とストーカー式の焼却施設を組み合わせた処理方式です。

バイオマス施設は、生ごみ、紙類などを嫌気性（酸素のない状態）の密封容器内で発酵させて、メタンガスと炭酸ガスの混合物であるバイオガスを回収。このバイオガスは施設内の発電燃料になります。また発酵残渣は、可燃ごみと一緒にストーカ式炉で焼却処理をします。

現在のごみ処理施設は、全量焼却（ストーカー）方式を採用し、燃えるごみは全て燃やしています。（三豊市が利用している、三観広域事務組合グリーンセンターも同様）

新施設は、焼却方式とバイオマス方式を併用した施設として国・県が推奨し、環境に優しい施設として注目されています。しかし、稼働実績が全国的に4ヶ所と少なく、安全性や信頼性が薄い施設です。専門家である大学教授から意見を聞きましたが、安全性や信頼性が確信できるまでには至りませんでした。



現在、建設予定地の用地測量や埋蔵文化財発掘についての予算が計上されているとのことです。

建設計画で出された問題点

第1

バイオマス方式は、安全性、信頼性に乏しく、導入に大きなリスクが伴うことが予想されます。バイオマス施設の稼働実績は少なく、全国でわずか4ヶ所です。国は、環境に配慮した施設と「安全神話」を振りまいていますが、安全神話が通用するだけの実績はありません。

第2

バイオマス方式はごみ減量化に逆行、環境に優しい施設といわれるほど、効果はなく廃プラスチックを「可燃ごみ」として回収するなど、ごみの減量化・資源化に逆行しています。

バイオマス方式の目玉はバイオガス（発電燃料）によって、施設内の電気を賄うことです。しかし、それに伴うバイオガス発酵層や発電施設を建設しなければなりません。また、バイオガス発酵層でバイオガスを取り出した後、発酵残渣がでますが、焼却施設で処理されます。

第3

一部のメーカーだけでなく、専門家の意見を十分聞き、確実・安全・安定的な処理を確保するため専門家を含めた検討委員会を作ることが必要です。この中で、専門的な内容を含めて討議することが必要です。



党三豊市議団は、「地球温暖化防止」、「資源循環システムの構築」の課題の中で、

(1) ごみを限りなく減らし、分別収集と再資源化を具体的にすすめること。

(2) ごみが減れば、小規模で財政力に見合った安全で安定的な施設建設が可能です。

建設問題については、『公開された広域議会に専門家を入れて決定すること』を基本に、一般質問などを行っています。

バイオ方式か溶融炉方式かの選択では
課題の解決にはなりません！！

下高瀬小学校校舎改築工事の概要

1月末に完成、年度末に移転の予定



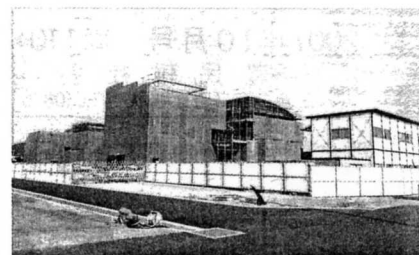
完成予想図

昨年12月に始まった、下高瀬小学校校舎改築工事は3階建ての7億3,080万円で行われています。

7月末に、三豊市議会教育民生常任委員会で調査に行きました。工事の進捗率は予定どおりで、1月末には完成の予定です。(エレベーターが設置されています)

現在の校舎は取り壊され運動場となります。

運動場の造成、校舎周辺の整備などの周辺整備事業は来年度(H20)の事業計画の中に織り込まれる予定になっています。早めの周辺整備に関する要望の集約が必要となります。



工事状況

コミュニティバスで国立善通寺病院への接続は？

市長「再度、善通寺市と話し合いをもちます」



新たなコミュニティバスが7月1日より運行を開始しました。それに伴い、従来走っていた仁尾バス「仁尾・善通寺路線」は廃線となり、一部区間は9月1日より運行を開始しました。

仁尾・善通寺間の路線は、戦前の木炭バスの時代より琴平・観音寺間は省営バスが運行し、病院利用者などの足としてなくてはならないものとなっていました。しかし、自家用車の普及などで乗車率の低下により、仁尾町がバス本数の減便などで運行し、病院などの利用者の足として活用されてきました。

独立行政法人国立善通寺病院は、拠点病院として

治療や入院などに利用されていますが、車あるいはタクシーに乗らなければ病院に行けない状況も発生しています。

善通寺行きのバスがなくなっただけで、往復3,300円をかけて病院へ月数回通っている人もいます。またある人は、7時の電車に乗り多度津経由で善通寺に行き、市役所から病院までの無料バスに乗って1日ばかりで行っているとの話もあります。人数は執行部の考える基準に届かないかもしれませんが、病院に行っている人から見れば死活問題です。

運行にあたって、廃止基準を決め、乗車率が悪ければ辞めますとっていますが、きめ細かい説明・意見聴取ができなかったのではないのでしょうか。

質問 今後、善通寺線への接続はどのように考えているのか。

(部長) 来年4月の段階で見直しの検討ができるように準備をしている。

(市長) 再度、善通寺市と接続についての話し合いをしたい。

弥谷寺・ふれあいパークと善通寺88ヶ所との接続などあらゆる方向を考えていきたい。

